

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300575
法人名	有限会社カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿屋市下高隈町5039番地8 (電話) 0994-40-6100
自己評価作成日	平成29年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URI	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社所有の畑が2アールあり、年間を通じて季節の野菜、芋等を栽培している。その日の調理当番は畑から収穫した野菜で調理できる。代表より、日々の野菜の情報が届く。無農薬でもあり、肥料もコンポスト等有機肥料を使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ ホームは市の中心地より約9km離れた幹線道路沿いの閑静な農村地帯に立地している。道路を挟んで同法人のデイサービス事業所や有料老人ホームがあり、利用者と一緒にボランティアの踊り等の慰問を楽しむ等の交流が図られている。広い園庭には菜園や広場が設けられ、建物内は明るく共有部分及び居室共により余裕ある広さが確保されている。開設以来、地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域行事や奉仕作業に積極的に参加し、ボランティアの受け入れ、法人によるオレンジカフェの実施、小・中学校との交流、駐在所による毎日の巡回、日常的に農産物を頂くなど日常的に密な交流がなされている。また、地域住民のホームに対する信頼も厚く災害時の協力体制も構築されている。

○ 管理者及び職員は、ホームの理念に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら敬愛の気持ちで一人一人の想いに寄り添い、利用者が「明るく、楽しく、仲よく、和やかに」幸せを感じながら過ごせるように取り組んでいる。利用者及び家族の想いや要望等に対しては、ケア会議や職員会議等で全職員で検討・協議を行って個別のサービスも十分に取り入れながら利用者主体のサービスの向上に務めており、利用者及び家族との深い信頼関係が築かれている。

○ 管理者は、日頃から職員との信頼及び協力関係の構築に努めており、自由に意見を述べ合い協議できる体制が築かれて運営やサービス向上に活かされている。また、職員のスキルアップを図るため、職場内研修の実施や外部研修への参加、資格取得へのバックアップに努め、職員が抱える諸事情にも細かに配慮し、有給休暇の取得を推奨するなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は運営の基本方針や目的をしっかりと踏まえて理念を共有し、介護の実践に繋げるべく園内研修に於いて学習をしている	ホームの理念は、「職員の理念」と「入居者の理念」で構成されており、ケア会議や職員会議で研修の実施や振り返りを行って意義を共有している。地域密着型サービスの事業所であることを常に認識し、利用者の尊厳を大切にしながら理念に沿って「明るく楽しく和やかな」生活を過ごしてもらえるように、日々支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	経営者が地元であり（ホーム隣に自宅）ホームも近所の人と気軽に声をかけられる環境にある。また地域の行事（奉仕作業等）にも参加している	町内会に加入して班会や奉仕作業、初年会、十五夜等に参加すると共に施設の敬老会等には家族や地域の人々の参加が得られている。友人知人の来訪や施設見学、中学生の体験学習、ボランティア等を積極的に受け入れ、散歩や買い物、通院時には地域の人々と会話したり、農産物等を頂くなどの交流は利用者の楽しみとなっている。法人代表の出身地でホームに隣接して居住していることもあり、日常的に地域と密接に交流が図られ駐在所や地域住民との協力体制も築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	月一回（第4金曜日）オレンジカフェ愛を実施している。地域の高齢者（認知症の方やその家族等）が参加して、約1時間半をお茶を飲みながら語り合い楽しんでいる		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や提案はサービス向上の為に役立っている。また会議には委員以外の地区の役員、消防分団の方にも参加してもらおうなどしている	会議は家族、2地区の高齢者クラブ代表、消防分団長、市担当職員等の参加で、定期的開催している。ホームの運営や利用者の現況、行事、ヒヤリハット等の報告を伝えるとともに、認知症や感染症、災害対策に関する研修や意見交換を行っている。職員は会議報告書で内容を共有して改善に努めるなど、具体的に日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話により、日常的な相談や指導を、また提出物等で顔合わせできる機会を通じて助言や指導を受けている	市の担当者には、運営推進会議に出席して貰うと共に、介護保険の更新やホームの運営に関する諸手続き等、密に情報の提供や意見交換を行ってサービスの向上に繋げている。市や大隅地区介護事業所連絡協議会が実施する会議や研修に積極的に参加して、行政職員や他施設の職員と情報交換を行うなど協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に身体拘束をしないケアを行っている	身体拘束を行わないケアの実施については、重要事項説明書や利用約款に明記し、利用者や家族に説明して理解を得ている。特に入浴や排泄、衣服交換時の声掛けは誇りや羞恥心に配慮しており、身体拘束廃止委員会の開催や施設内外での研修の実施、ケアの振り返り等で利用者の権利を擁護し拘束を行わないケアに取り組んでいる。外出したがる利用者に対しては一緒に散歩して安定を図るなど、利用者が安全で自由な生活が過ごせるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については研修会等に積極的に参加し学習しており、施設内でも園内研修に計画を組み入れている。資料としては行政からの通達の文書等を使用し、具体的に話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	経営者、管理者、職員共に研修等で学ぶ機会を得ている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	全ての文書において説明を行い理解、納得を得て利用して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や提言があれば、受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている	利用者の思いや意見は日頃の暮らしの中での会話や表情、仕草等で理解に努め、家族の意見や要望は来訪時や電話連絡、家族会、運営推進会議時に対話に努めて把握している。要望や意見は、連絡帳や介護日誌等で情報の共有を図り、ケア会議や職員会議等で改善策を話し合っサービス向上に具体的に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回開催の幹部会議の他に、日常的に聞く機会があり（お茶や食事時）すぐに反映できること、また社長、施設長に相談して出来る限り実践している	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日常の業務の中や個別面談等で職員の意見や希望等を聞き取り、協議して業務の改善やサービス向上を図っている。勤務シフトの作成や外部研修の受講等も可能な限り職員の意向を反映させ、有給休暇の取得の推奨や資格取得に対するバックアップなど働きやすい職場づくりに努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすい職場にするために、度々職員の意見を聞いたり、会社の方針を話す等して、双方の条件を整えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得が出来るように進め、シフトの組み合わせや受講費用の助成も実施している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡会において、交流会や研修会が多く、可能な範囲内で参加している</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の要求に沿ってできるだけ叶えられるよう努力している。根気強く本人と向き合う事で、安心感と信頼は得られていると思う</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期には可能な限り家族に来園して頂き、話したり現状を見てもらいながら問題点があれば受け止めて対応できる体制を作っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら話を聞いて、出来る事等見極め対応を行っている。他サービス利用は本人や家族からの要望も無くグループホーム以外の利用はない		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたためる等の家事が出来る人はわずかとなった。本人の若い頃、小さい頃の思い出話などは聞かせてもらえるが、ADLの低下により介助が増えている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が出来ない事を手助けし、また家族にお願いする事もありいい交流が図られる努力をしている。本人に少しでも変化があれば電話をかけて相談したり報告をしている。また受診時送迎をホームで、受診中の付き添いを家族でと分担しつつ、本人の状態も理解してもらっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の人々の認知症への理解も進んできており、今後も途切れる事のないよう支援に努める	利用開始時に本人や家族、関係者から利用者の入所前の生活状況を把握し、アセスメント要約表で情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、本人の希望に沿って馴染みの美容室での整髪や墓参り、買い物、一時帰宅、外食等を家族の協力を得て取り組んでいる。また、遠方の家族には利用者の状況を伝えると共に電話、手紙の取り次ぎも支援するなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴、全盲などにより孤立しがちな人もあるが、馴染みの関係となり、時には衝突しながらも和やかに暮らせている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族にも、他の施設に移られた利用者の方々にも時折は近況を聞いたり訪ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家に帰りたい意向の強い入居者の希望はかなえられないが、一緒に外出したり散歩等により、一人一人の思いや希望にそえるよう努めている	利用開始時に利用者や家族の思いや意向を把握し、入所後は日常の会話や仕草、独自のサイン等も参考にしながら思いの理解に努め、その人にとって最善のケアとなるよう取り組んでいる。ぬり絵等の趣味や得意な作業（菜園の手入れ等）の取り組みなど余暇時間の過ごし方も、可能な限り利用者の希望に添った生活となるよう健康状態等に配慮しながら個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に話をしながら、今迄の暮らしぶりを聞いたりする。入居者個人の要望に応えながら時間を作って一緒に行動しながら把握していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で昼寝をされたりテレビを観たり散歩や手伝い等、心身の状態を常に把握し、一人一人に合った過ごし方が出来るように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングはケア会議でスタッフ全員で行う。本人、家族、介護スタッフ、計画作成担当者他関係者とはその都度話し合って介護計画をたてている	本人・家族の希望や主治医の意見等を把握し、課題の分析やケアの方法をケア会議で協議して、きめ細かな内容の介護計画を作成している。支援の実施状況は「介護日誌」や「介護経過」「連絡帳」等で情報を共有しており、モニタリングを適切に実施し、利用者の実態に即した介護計画を作成して支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し、口頭で日勤者より夜勤者へ、また施設長、副施設長、管理者に報告される。入居者の情報は共有しほぼ把握して介護に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにはその都度本人や家族の要望に可能な限り、柔軟に支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	元民生委員には相談苦情の委員をお願いしており、地域の消防団とは年一回避難訓練を通じて入居者の状況を理解してもらっている。また運営推進会議にも年一回参加してもらっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	重度化した入居者の多い中、協力医療機関に相談して、定期的に往診をしてもらっている。その他の異常や緊急時には医療機関に連絡して受診している	利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。定期的な通院や専門医の受診等を家族及び職員が協力して支援しており、訪問診療も実施されて利用者の安心に繋がっている。利用者の病状や受診結果は「介護日誌」等で情報を共有し、家族にも病状や受診結果を報告するなど密に連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制でホームの看護師と相談して、入居者の健康を管理し、適切に見極め出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、その後の受け入れなど医療関係者、家族ともよく相談し可能な限り早期退院に向けて努力している（入院後2週間を目途としているが、必ずしも2週間でなく幅を持たせて柔軟に対応している）		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師や管理者が中心となり、家族も含めて検討し、可能な限りホームで暮らしていけるよう努力している	重度化や終末期におけるホームの対応は入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状の説明がなされ、職員や関係者、家族は十分な話し合いを繰り返しながら、可能な限り家族が希望する支援に取り組んでおり、これまで3件の看取りを実施している。終末期のケアに対する職員のスキルアップや不安感の軽減については、管理者と看護師がフォローや指導に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の普通救命講習を受けており、今後も続けていく。急変時の連絡網及び救急時に情報提供カード等整備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防分団及び中央署にお願いして年2回夜間想定訓練を実施している。(分団との訓練では日没後の18時より実施)非常ベルは北側南側の外部に向けて鳴動するしくみで地域の協力も得られると思う。	消防署と連携して、年2回の火災訓練を実施しており、消防署職員による災害に関する講話や消火器等の取扱いの研修も行われている。夜間想定訓練は地域住民十数名の参加を得て日没後に実施しており、手作りの防災頭巾を各居室に備え、非常ベルの設置など工夫した取り組みを行っている。マスコミの災害報道を事例に意見交換を行うなど日頃から意識を高めており、地域住民との協力体制も築かれている。スプリンクラーや自動通報装置等を完備し、災害時の米や食料、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は年長者として失礼のない言葉づかいや態度を心がけている。	マニュアル「入居者のプライバシーについて」を整備し、利用者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように取り組んでおり、接遇研修も計画的に実施されている。排泄・入浴・更衣等のケアに際しては、羞恥心等に細かに配慮しており、居室やトイレ、浴室はプライバシーが確保された構造になっている。利用者のケアに関する台帳等もプライバシーの保護に配慮して適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望が解る限りは希望に沿うように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして暮らしてもらえるようにはしているが、見守りに欠ける時間帯には必ずしもというわけではない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理美容など本人の希望が解る限りは希望に沿うように努めている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、好きな物など聞いたり、食事の形態等希望や状態に合わせている	利用者の好みや摂取制限、形態、栄養バランス、季節感、安全性に配慮し、住民から頂いた農作物や菜園で収穫した新鮮な野菜、果物を活用して調理している。季節の行事食や家族との会食、外食、手作りのおやつ等、食事が楽しみなものとなるよう工夫し、職員も同じ食事を摂っている。利用者毎に食事の摂取量や水分補給、服薬等に配慮し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはほぼ同じ量を摂取されている。水分量は一日の理想摂取量がほぼ摂れている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人の口腔状態に合わせて必ず実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えと時間毎の誘導にてトイレでの排泄ができるよう支援している	バイタルチェックノートで利用者毎の排泄パターンを把握し、食事の摂取状況や水分補給等も配慮しながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。羞恥心や不安の軽減にも細かに気遣い、利用者の状態に添って介護用品の工夫や便秘の予防対策などを介護計画に反映させて改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常習性便秘で緩下剤服用の利用者もあるが、食事や水分で快便に繋がるよう工夫はしている。三日以上排便が無い時は医師の指示の下、緩下剤で調整している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴出来る環境にはあるが、時間帯が決まっており全員入浴できない為、交代にしている	利用者の健康状態を把握し、足浴や清拭も含め週2～3回の入浴を支援しているが、排泄の失敗等には即時に清拭や入浴で清潔の保持に努めている。入浴の時間や温度、好みのシャンプー、同性介助等は利用者の希望に添って柔軟に対応し、外の景色を眺めながら、ゆっくりと入浴を楽しめるように取り組んでいる。入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間や声掛け等を工夫して利用者自身の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	他の入居者を気にせず、居室でゆったりと過ごしてもらえよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の処方について、飲み方やその内容、副作用など把握するように指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る人に出来る事をしてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	重度化が進み、頻繁に外出は出来ていない。定期的に美容院へ行く方、自宅が近隣にあり帰宅する方等への個別の支援を行っている	外出に関する利用者の意向は、日常の会話や関わりの中で把握に努めており、健康状態や天候に配慮しながら、可能な限り本人の希望に沿って散歩や買い物、通院、外食、美容室での整髪等の外出を家族と連携して実施している。利用者の重度化に伴い、全員での遠方への外出は困難となっているが、広い園庭を花木を愛でながらの散歩や日光浴、オレンジカフェへの参加等、工夫して利用者の状況に応じた外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感のため少額持っている方はいるが使う機会は殆どない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけたい申し出があればかけている。手紙が届くことはあっても入居者自身が書くことはない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は、個々の訴えに合わせて消したり小さくしたり配慮しており、居心地良く過ごせていると思う	玄関や、ホール、廊下などの共用空間は余裕ある広さで、吹き抜けの天井に天窓も設置されて解放感に満ちて明るく、異臭や空調、整理整頓等に十分な配慮がされている。随所に手作りの作品や季節に合わせたデザインのタペストリー、生花等が飾られ、また、テーブルセットやテレビ等の家具が利用者の動線を考慮して設置されており、和やかでゆったりと寛げる環境になっている。広い園庭及び法人所有の庭には多種の樹木や果樹、花が植えられ、利用者は四季を感じながら好みの場所で居心地よく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人と一緒に過ごせるようテーブルの席を工夫している</p>	/		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の写真や、家族から届いた家族の写真を貼ったりしている</p>	<p>居室は、フローリングの床に腰高窓の仕様で明るく、エアコン、ベッド、クローゼット、整理ダンス、洗面台が備えてある。整理整頓や清掃等に配慮し、利用者が安心安全で快適な生活が営めるように日々支援に努めている。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように使い慣れた寝具や、椅子、家族写真、小物等を自由に持ち込んで、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの出来る事。出来ない事を把握して、その人にあった生活援助に努めている</p>	/		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
		○	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない